

平成18年度年次晩餐会 名古屋にて開催される

12月2日、初の地方開催となる年次晩餐会が、東海支部（和田豊司支部長）の協力のもと「ウエステインナゴヤキャッスル」ホテルにて開催され、435名が出席した。

会場の前で、まず目についたのは、金のシャチホコで有名な名古屋城。名古屋という土地を否が応でも感じさせてくれるベストスポットでの開催は、何とも心憎い。会場に設けられたグッズ販売コーナーでは、東海支部のオリジナルである「猿投のあらまし（猿投の森の会発行）」や、カジタックス製の金のピッケルが目を引いた。

「初の地方開催となる今回の晩餐会は、私たち支部をあげての手作りです。支部員と会友合わせて80人ほどの協力を得て、約10カ月をかけました。テーブルマスターは、すべて、東海支部の会員が担当します。作法などについては、本部からレクチャーを受けました。みんな張りきっています」と事務局長の佐野氏は語った。

定刻になり、いよいよ会場へ。なんと、雄大な高原を彷彿させるアルペンホルンの生演奏に誘導されるながらの入場である。演奏するのは「大桑アルプホルンクラブ」、大桑村で育ったクラブだという。

次に、「東海学園交響楽団」（高校生）による生演奏である。雪山讃歌にはじまり、ブラームス交響曲第4番第3、第4楽章が会場いっぱいに響いた。晩餐会でオーケストラの生演奏！なんと優雅なところか……。この2つの生演奏に感動したのは筆者だけではなからう。

さらに、特筆すべきは「ローツエBCとの生中継」である。会食の団らん中に、その交信が突然入った。会場前面に設けられた大きなパネルには、田辺治隊長率いる冬期ローツエ南壁登山隊の、今まさに挑んでいる千田敦司隊員の顔が映し出された。会場には「オッー」という歓声と、拍手が起こった。5200m地点からの映像と声は、会場に興奮と感動を与えた。「うまくいくかどうか、未知なん

です。うまくいってくれるといいのですが……」と、この企画を不安気に話していた関係者の安堵の顔がよぎった。

地方開催の狙いは、支部の活性化、晩餐会出席の誘導などにある。と平山会長は挨拶で述べていた。支部の特徴を生かし、思考を凝らした新鮮な試みの数々、支部員の更なる団結、本部との連携プレーなど、山岳会に新たな1ページを刻んでほしいと願う。

最後に「これまで晩餐会に出席したことがなかったけど、今回かわってみて思ったことは、本部の晩餐会も見てみたい」という東海支部会員の声が印象的であった。（晩餐会の詳細な報告は、新年1月号に掲載）

（取材と文）奈良千佐子